

市長から



市民のみなさんへ

山陽小野田市長 白井博文

⑥ まちづくり市民会議「市民まつり検討」部会の募集と第1回目の「対話の日」を終えて

まちづくり市民会議『市民まつり検討』部会の募集について

今回は、まず、まちづくり市民会議「市民まつり検討」部会の募集についてお話をさせていただきます。

合併前の両市町では、まちをあげての市民祭りとして、「小野田まつり」と「まつり山陽」が11月に行われていました。そして、山陽小野田市となった今年も、「小野田まつり」は11月3日に、「まつり山陽」は11月13日に開催することが決まっています。

これらの盛大なお祭りは、地域の活性化、まちの発展に貢献してきたことはいまでもありませんが、たくさんの人々のご協力、ご尽力があったからこそ、今日まで引き継がれてきたと思います。しかし、一方で、行政が中心となって"お膳立て"をし、住民の方に"参加していただいて"いたという面があったことも否めないかと思えます。しかも、行政中心で企画をいろいろと考えていたため、その発想にはどうしても限界があり、祭りがマンネリ化していると言われようになっていました。

企画段階から市民の斬新なアイデアを採り入れ、計画し、準備から開催まで、市民自らの手で作り上げていく～来年以降の、今までにない新しい「市民まつり」の実現を目指して、今回、まちづくり市民会議の第3号「市民まつり検討」部会を設置することにしました。部会にお集まりの方々には、新市の誕生を記念するとともに、後世まで引き継がれていくような祭りについて、壮大な構想を練っていただくことになるでしょう。ユニークなアイデアが次々と生まれることを期待しています。

半世紀以上も前のことになりましたが、私も子どものころ、お祭りの前の夜に、興奮して眠れなかったことを思い出します。あのドキドキした気持ち、ワクワクした心の高ぶりをもう一度、味わってみたいと思います。今まで祭りに関係してきた方々を含め、お祭りが大好きな市民のみなさんのご応募お待ちしております。

新しいかたちの「まちづくり市民会議」

今まで「市教育施設の使用料」部会、「市の名称」部会という2つの市民会議を設置しました。いずれも私が行政運営の企画立案をする上で、一定の方向性をもった意見をまとめていただくことをお願いしています。しかし、今回の部会は、たとえば「二つの祭りを統合しましょう」など

といった意見の集約を図るものではなく、「市民」や「市役所」といった枠組みを越えて、アイデアを持ち寄り、「市民のだれもが楽しむことのできるまつり」について話し合いを重ねる場となるでしょう。いわば、今までとは意味合いが少し違った、新しいかたちの「まちづくり市民会議」が生まれたといえるかもしれません。市民のみなさんと市役所とが力を合わせて、ゼロから一つのもを作り上げていく過程の中で生み出されるエネルギーには、計り知れないものがあり、新しいまちづくりの原動力となっていくと私は確信しています。

「市民まつり検討」部会の協議の行方を、大いに期待したいと思います。

第1回目の「対話の日」を終えて

7月28日の福田公会堂で行われた「対話の日」に、お忙しい中、たくさんの方にお集まりいただきました。昼間の暑さが残る会場で、しかも、予定を大幅に越える2時間30分もの間、途中でお帰りになる方もなく、みなさんが最後までおつきあいいただいたことをとてもうれしく思います。ありがとうございました。

様々なご要望等について、納得のいく回答をさしあげられなかったものもあり、その点については、申し訳なく思います。しかし、畳の上に座り、みなさんと膝を交えて意見交換をしているうちに、一歩、二歩とみなさんが私に近づいてくるようにさえ感じられました。「市民のみなさんと市長との距離を少しでも縮めたい」という想いで「対話の日」をはじめたのですが、その当初の目的からすれば大成功の第1回目だったと思います。

「自分たちも市長と一緒にこのまちをつくっていこう」という、みなさんの市政に対する熱い想いは十分すぎるほど、この肌で感じました。そして、たくさんやる気と勇気までもらうことができました。福田地区のみなさん、本当にありがとうございました。

次回は8月25日、本山福祉会館におじゃまします。多くのみなさんご参加をお待ちしています。



**8月の
対話の日**

●とき: 8月25日(木) 19時から
(1時間半程度の予定)

●ところ: 本山福祉会館(大須恵)

「市長から市民のみなさんへ」についてのご意見、ご感想をお寄せください。

〒756-8601

山陽小野田市企画広報課広報係 (FAX)83-9336

(E-mail) ki-kouhou@city.sanyo-onoda.lg.jp